

救援新聞

岡山県版
発行人 瑞穂寛 博
日本国民救援会
岡山県本部

警察のズサツキと 裁判所の非常識

守大助さんのご両親を迎えて

県内3カ所で学習会を開く！！

救援会岡山県本部と倉敷・岡山・美作の3支部の主催で、4月2日～4日にかけて、無実の服役囚・守大助さんのご両親を招いて、「仙台筋弛緩剤えん罪事件（旧称北陵クリニツク事件）」の学習会を開きました。

大助さんの父親の勝男さんは「大助の代りに無実を訴えようと、大助が収監される前に着用していたネクタイと、刑務所の作業で作った革靴を履いてきました」「みなさんに警察のズサツキと裁判所の非常識を知ってもらいたい」と事件の概略を報告しました。

裁判官の非常識の一例として、（これはあまり報道されていないと思いますが）「病院は病気を治しにいくところだから、病院で死ぬということはおかしい」と常識では考えられないことをいいます。（論理的整合性を考えるあまり、事実と乖離するのでしょうか？）

警察の証拠のデッサンでは、大阪科捜研の土橋鑑定で、筋弛緩剤マスキュラックスを全量消費して再鑑定できない状態にしていることのほか、警察が注射針の箱の中にあつた9本のマスキュラックスのアンプルを3枚に分けて写真撮影し、19本に見せていることなどを参加者に報告しました。

仙台へ連れて帰って

母親の裕子さんは、「息子は中学時代にクラブ活動で怪我をして、看護師になろうと決めた。決して人をあやめたりできる子ではありません。やさしい子です」「千葉刑務所に面会に行きますが、面会時間はたったの20分です。帰り際に大助が“お父さん、お母さんと一緒に仙台へ帰りたい”と言うのです。そのとき余計にかわいそうになって涙が出てきます」と話していま

〒700-0054 岡山市下伊福西町1-53
Tel 086-254-2799 F 086-256-2589
Email okakyuen@ms13.megaegg.ne.jp

北陵クリニツク 事件とは？

倉敷の学習会に参加していた医師は、「4ミリリットルの筋弛緩剤を500ミリリットルのボトルに入れて薄めた状態で点滴して、薬効があるのかは疑問です」と発言、殺人事件そのものがなかったことをうかがおせします。

守大助さん（当時29歳）は、勤務していた北陵クリニツクにおいて、患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年1月6日に逮捕されました。その後1人の殺人、4人の殺人未遂罪で起訴されました。

美作支部では、守大助さんに継続的に絵手紙を送っている、続池さん、美見さん、吉岡さん、村上さんらが紹介されました。また、再審に向けて支援者はどうすればよいか、国民救援会をどのようにして知ったのか、などの質問が相次ぎました。

しかし、守さんにはなんの動機もなく、また容疑となつた5人の容態急変は、筋弛緩剤（マスキュラックス）の薬理効果とは矛盾し、殺したとされる患者について、担当医師は心筋梗塞と診断しています。

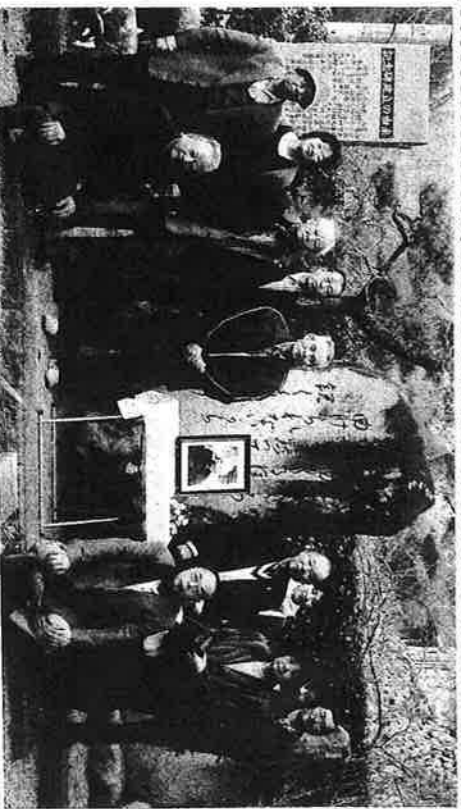
倉敷で40名、岡山で36名、美作で35名の参加でした。
この学習会に関連して、倉敷支部で3名の新会員、美作支部で3名の新・再入会がありました。

土橋鑑定の間違い！

2006年2月、宮城県警は東北大学と共同で、筋弛緩剤の主成分であるベクロニウムの質量を分析し、その結果が弁護団のデータと同じでした。土橋鑑定が間違っていることを示しています。



倉敷支部事件学習



難波英夫碑前祭に集まった方々

難波英夫碑前祭とトリおこなう

4月3日、高梁市成羽町で難波英夫碑前祭が行われました。三村盛紀記念碑管理委員会代表委員（救援会高梁支部長）は「救援会は人権を守る団体として大きな影響力を持っています。高梁市成羽町が、救援会の創立者の出身地であることを誇りに思います。」とあいさつしました。今年は16回目の碑前祭です。